

個人と企業の海外安全のチェックリスト

個人として気をつけるべきこと

住居

1. スラム街、問題地域の近くは避ける
2. 警察署などに来るだけ近い所を選ぶ
3. 限定されたガードマン付き地域を選ぶ
4. 戸建より外国人用の集合住宅を選ぶ
5. 鍵はすべての扉と窓に二重三重につける
6. 合鍵を持ち歩きオリジナルは厳重保管する
7. 入居時に鍵を全部新しく付け替える
8. ドアはチェーンをしたまま対応する
9. 就寝時は鍵だけでは不安、棒で侵入を防ぐ
10. 近辺と仲良くし常に協力しあう関係を保つ
11. 玄関など夜間用の照明を設置、明るくする
12. 外に日本式の立ち木、目隠し用物品を置かない

電話

13. 切断に備え平常から無線通信手段を確保する
14. 警察など緊急連絡先の電話番号を貼っておく
15. 必要最小限の緊急用の現地語を練習し貼っておく
16. 盗聴されてもよいことだけを話す習慣
17. 家の電話で業務連絡や打ち合わせをしない
18. 電話番号は暗証番号のつもりで人に教えない
19. 電話番号は電話帳に掲載しない
20. 見知らぬ人に軽々しく電話番号を教えない
21. 料金請求書を毎月チェックする

貴重品

22. 高額紙幣を持ち歩かない、見せない
23. 万一に備え強盗に渡す現金は用意しておく
24. 現金とクレジットカード類は別々に保管する
25. カード、旅券、証明書類の番号を控えておく
26. これらの番号は日本の留守宅にも知らせておく
27. 期限切れなど不要なカードは直ちに破棄する
28. カード、旅券などの紛失、盗難は即刻、届ける
29. 発行元、最寄りの警察、大使館所在地表を持つ
30. 緊急の場合、日本留守宅に連絡の依頼
31. カード類の料金請求書は毎月チェックする

その他

32. 目立つ服装の着用、物品の携帯、行動を避ける
33. マッチポンプ式のスリ、置引、脅迫に注意する
34. 人質にされたら忍耐し反抗的態度をとらない
35. 銃撃戦になったら何が何でも床に伏せる
36. 以上のことを平常から家族に徹底しておく

企業として気をつけるべきこと

事務所

37. ガードマンを受付けと入口と出口に配置する
38. 侵入センサー、警報装置を設置、時々テストする
39. 出入りに監視用テレビを設置する
40. 爆弾、武器を隠しやすい鉢植えなどを置かない
41. 電話盗聴装置の有無を時々専門家によりチェック
42. 不審時には、日程など重要事項はコード番号で連絡
43. 外部業者、訪問者のセキュリティチェック
45. 従業員の出退勤の際のセキュリティチェック
46. 幹部の日程と所在を外部に知られない様にする

自動車

47. スタイルより重量感ある頑丈な車種を選ぶ
48. 緊急時用の電話、無線、トランシーバを備える
49. 破損時や盗難時の警報装置をつける
50. 色付きガラスかカーテンで内部を隠す
51. 派手な色の車を避ける
52. 車体に社名、電話番号などを書かない
53. 幹部社員は現地人の運転手を雇う方が安全
54. 出社退社時間と運転ルートは不定にする
55. 駐車場は有料で人気の多い場所を選び駐車する
56. 車を離れる時は貴重品を残さず、必ずロックする
57. 救急セット、応急道具などを常備する

交通

58. 「白タク」には絶対乗らない
59. 深夜は地下鉄になるべく乗らない
60. 電車は空いている車両を避ける
61. 電車の中では居眠りをしない
62. 空港のカウンターで荷物を離さない
63. スーツケースに名前を書かない、タグは裏向け
64. 制服の偽の役人や航空会社などの係員に注意する
65. 時々後ろを振り向くと効果がある

ホテル

66. チェックイン・アウトの時も荷物を離さない
67. 部屋の鍵は誰かが合鍵を持っている前提で出入り
68. 外出時は、部屋の中に貴重品を置かない
69. ホテルの従業員と称しても深夜は電話で確認する
70. 就寝時はドアチェーンの他、椅子などでバリケード
71. エレベータの中ではボタンの近くに立つ
72. 危険とされる地域に入ったり、歩かない
73. 見知らぬ人と軽々しく歩いたり、飲食しない